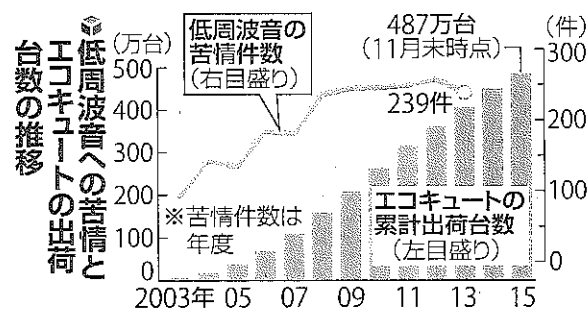


低周波音 苦情相次ぐ

機械などから出る低周波音への苦情が増えている。不眠や食欲低下などの健康被害を受けたとして、全国の自治体に寄せられる相談は年200件を超え、20年前の5倍以上になった。この間、省エネ対策で急速に普及した家庭用発電装置や給湯機器が発生源の一つとされ、隣人間のトラブルが裁判に発展するケースも出てきた。国は、こうした低周波音が不快感を生じさせることがあると認め、健康被害との関連を調べている。(河下真也)

家庭用省エネ機器 原因か

低周波音 1秒間に空気が振動する回数(単位は Δ)を周波数といい、回数が少ないほど低い音として聞こえる。バスやトラックのエンジン、変圧器、ボイラーなどから発生し、環境省によると、おおむね1~100 Δ の範囲。音が小さい場合、人によって不快感や圧迫感を覚えたり、あるいは何も感じなかったりと、聞こえ方が異なるという。



「エネファーム」から聞こえる音が24時間途切れず、それから3日間眠れなかった。食欲が落ち、胸に痛みなども感じて11年3月、近くのマンションに転居した。女性はインターネットなどで原因を調べて低周波音の影響と考え、14年2月、被害防止に取り組みNPOを設立。相談があった約160人の8割超が睡眠障害を訴え、5割近くが胸の圧迫や痛みを感じていた。ただ、低周波音は人によっては聞こえず、被害が理解されにくいのが実情という。

不眠、食欲低下 年200件超

女性は一戸建ての自宅を残しており、15年6月、隣人やメーカーにエネファームの撤去などを求め、大阪地裁に提訴。「静かな騒音の存在を知ってほしい」と訴えるが、被告側は訴訟で、「健康被害との因果関係は不明。撤去義務はない」と反論、全面的に争っている。環境省によると、全国の自治体に寄せられる低周波音への苦情は1980~90年代に年20~40件程度だったが、2000年代に急増。08年度は200件を超えた。中でも「家庭生活」を発生源とする苦情が増えており、省エネ用機器もこの中に含まれるという。この傾向は、家庭への省エネ用機器普及の動きと重なる。業界団体によると、例えば家庭用ヒートポンプ給湯機「エコキュート」の出荷台数は累計で04年に10万台、07年に100万台を突破し、現在では約480万台に上っている。

運動あるか 調査必要

低周波音を30年以上、研究した山田伸志・山梨大名誉教授(騒音制御工学)の話「不快感やストレスにつながり、健康被害の一因になり得るが、その要因が低周波音かどうかは、機器の稼働・停止と運動しているかを調べる必要がある。トラブルが起きた場合、当事者同士が話し合うと感情的になりやすく、有識者の意見を聞くことができる自治体の公害調停を利用する方法もある」

真玄わ
SAMURAI GALLERY
武士ギョラリ
刀剣、小道具、甲冑武具
買います 売ります
お気軽にご来店、お問い合わせください
〒101-0044 東京都千代田区錦州1-7-17
☎03-3252-7844
東京メトロ日ノ本駅南口より徒歩1分
http://samuraigallery.com

市民向けパンフレットで、低周波音について「不快感を抱く人もいる」としたうえで、「寝室を交差する」「窓の揺れを抑える」などの対策を呼びかけたが、健康被害との因果関係については、今も「調査中」(担当者)と慎重な姿勢だ。一方で、低周波音が健康に影響を与えていることをうかがわせる事例もある。消費者庁の消費者安全調査委員会(消費者事故調)は14年12月、隣家のエコキュートで不眠や頭痛などを発症したとする群馬県高崎市夫妻の訴えに対し「低周波音が関与している可能性がある」との報告書を公表。15年11月には、同様に「難しい。指定された60年前年に勉強会を作り、英国の